

「内科学」

金澤 一郎
北原 光夫
山口 徹
小俣 政男
総編集

自治医科大学学長

高 久 史 磨

医学書院から最近刊行された金澤一郎、北原光夫、山口徹、小俣政男4氏の総編集による『内科学』の書評を頼まれ、お引き受けしたところ、早速『内科学Ⅰ・Ⅱ』が私の事務室に送られてきたが、まずその量が膨大なのに驚いた。執筆者の数も同様に膨大である。

その内容を見てみると、Ⅰ巻のⅠの「社会のなかの内科学」の見出しが目にとまった。確かに医学は理系の学問の中では社会との接点が最も幅広い学問分野であり、その中で内科学が中心であることは周知の如くである。その意味で内科学書の最初の項目として、このような幅広い問題を取り上げたことは高く評価されるべきであろう。

次のⅡの「内科学の進歩」では最

近の医学の進歩を、内科学を中心にまとめて紹介している。このことも本内科学書の新しい試みであると考えられる。

次に系統ごとの疾患の項目を見ると、本内科学書の各系統の最初に感染症を持ってきたこと、しかもその内容が従来のわが国の内科学書よりもより充実したものになっていることが注目された。近年民族間の国際的な交流が盛んになり、SARSや鳥インフルエンザ等の新たな感染症の国際的な広がりが大きな話題になっていること、医療の安全と関連して院内感染症が問題になっていること等の昨今の状況を考えて、この試みは時宜を得ているといえることができるであろう。また各系統の疾患の記載の最初には「理解のために」

という項目が必ず設けられ、各系統の疾患の総論的な事項が紹介されている。内科学という広範な領域を1冊の本でカバーしようとするならば、このような系統ごとの総論的な記載は当然なされるべきである。

私はこの書評を書くに当たり、総編集の方々による本書の序文を読ませていただき、皆様方のこの内科学書に対する意気込みと同時に、完成までのご苦勞を十分に汲み取ることができた。

本書の完成に貢献された諸氏のご尽力に敬意を表する次第である。

● A4変型 頁3268 2006 定価
33,600円(本体32,000円+税5%)

医学書院 刊(☎03-3817-5657)